

第2学年 生活科 学習活動案

	対 象	授 業 者
第 2 学 年 1 組	3 4 名	
第 2 学 年 2 組	3 5 名	
第 2 学 年 3 組	3 4 名	
第 2 学 年 4 組	3 5 名	

※各学級の枠を超え、学年内混合で活動しています。

1 単元名:「とびだせ! さくらまちたんけんたい」 内容項目:(3)地域と生活、(4)公共物や公共施設の利用

2 単元の目標(単元を通して子どもたちが学ぶであろうことから)

地域と関わる町探検をしたり、見つけたお気に入りや表現したりする活動を通して、自分たちの住む地域の場所や、そこで生活したり働いたりしている人々について考え、愛着をもてる人や場所が増え、それらが自分たちの生活を楽しくしていることに気付くとともに、地域への愛着をより深め、そのよさを大切にしようとするすることができる。

3 育成をめざす資質・能力(育つと考えられる資質・能力)

知識及び技能の基礎	思考力・判断力・表現力等の基礎	学びに向かう力、人間性等
地域と関わる活動を通して、地域での生活はさまざまな人や場所と関わっていることや、他者と関わることのよさに気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けている。	地域と関わる活動を通して、これまでの活動の経験を生かしながら、桜町について考え、自分の思いを形にして表現することができる。	地域と関わる活動を通して、地域により親しみをもって生活したり、他者とすすんで交流したりしようとしている。
①公共の場所には、みんなが気持ちよく過ごすためのルールがあることに気付いている。 ②みんなが住みやすい場所になるように、様々な人たちが関わりあって生活をしていることが分かっている。	①町探検で訪れた場所や出会った人について、知っていることを表現したり、伝え合ったりしている。 ②町探検を通して、桜町について想像力を働かせ、自分の考えを表現したり、形に表したりしている。	桜町について考えることを通して、自分たちが住む町について愛着をもち、意欲をもって学ぼうとしたり、生活を豊かにしようとしていたりしている。

4 研究の手立て

○子ども主体の学習になるための手立て

(1)子どもがより意欲的に活動できる材の設定

2年生になると、子どもの行動範囲が徐々に広くなり、自分たちの住む町についても知ることが多くなっていく。そのような実態を踏まえ、「おすすめを紹介しよう」と子どもに投げかけたところ、自分たちが普段よく行くお気に入りの場所を、「～がよいので、ぜひ行ってみてください。」などと、いろいろな場所を生き生きと紹介し合う姿が見られた。その後、学区域の地図上に記したおすすめ場所に、一人ひとりが付箋を貼って視覚化し、全員が町の中のおすすめの場所を理解しやすいようにした。

2年生になり、行動範囲が徐々に広がるとはいえ、自分の学区域以外をあまり知らなかったり、学区域であっても今まで詳しくは知らなかった場所があったりするだろうと予想し、実際に町探検に行くことで、あらかじめ知っていたおすすめ場所を確認したり新たにおすすめの場所を見付けたりすることができると思った。

始めの2回は学級ごとに町探検に行き、その後は、興味をもった場所が同じ友達同士で学級の枠を超えてチームを作り、改めてチームごとに町探検に行った。3回の町探検で、学区域全体から自分が選んだおすすめ場所というように、町探検を複数回行い、焦点を絞ることで、町への興味・関心をより深めることができ、段ボールでおすすめ場所を作りたいという思いをより強くもつことができると考えた。

また、2年生は、ものづくりをすることに全力で向き合い、生き生きと取り組む姿が見られる。そのため、町探検を通して気付いた町のよさや町への願いを、大きな段ボールを使ってダイナミックに表現することにより、子どもたちがより楽しみながら、意欲的に活動していけるのではないかと考えた。

(2)子どもと共に追究する一人の教師としてのあり方

子どもが主体的に活動に取り組めるように、教師として以下の事に配慮した。

まず、子ども自身が選んだおすすめ場所に、町探検で行けるようにした。子どもたちから挙げたおすすめ場所を、用賀方面、桜新町方面、中町方面の3つの地域に分け、まず学級単位で探検することにした。次に、興味をもった場所が同じ子ども同士でチームになれるよう、学級の枠をこえて学年全体を対象としてチーム分けをした。チーム分けの際は、まず子どもの希望を優先し、加えて、チームで楽しんで活動ができるよう、教師はメンバーの組み合わせに配慮した。チーム分けをした後は、チームごとに集まり、これから一緒に活動していくために、メンバー同士で自己紹介をしたり、どのように段ボールでお気に入りの場所を作っていくのか、より具体的なイメージをもつことができるように教師から説明をしたりした。そして、チームごとに町探検に行く際は、段ボールでおすすめ場所を表すために詳しく見てくる視点を教師が示し、そこを意識しておすすめ場所を見てくることができるようにした。例えば、入り口はどうなっているのか、中にはどんなものがあるのかなど、子どもたちが詳しくみてくることができるように、事前のオリエンテーションで教師がしっかりと説明した。また、学年で時間を合わせ、同じ時間に生活科を行うことで、学級の枠をこえての活動を可能にした。

さらに、子どもが使いたいであろう道具や材料を予想し、提供した。大量の段ボールが必要になるので、校内で出た段ボールをその都度集めたり、給食室の方に協力してもらい、食材が入っていた段ボールを毎日集めてもらったり、教員の家族が協力し、段ボールを運び込んだりするなど、様々な方法で段ボールを集めた。子どもの思いや願いが実現できるように、教師は環境を整えることに徹した。

○探究的な学びに向かうための手立て

カリキュラム・マネジメント(※後述)

○協働的な課題解決に向かうための手立て

自分と友達の思いや願いを大切にしながら活動計画を立てる

目的に向かって、意欲的に活動できるように、興味をもった場所が同じ子ども同士でチームを作っていくことにより、必然的に協働的になるようにする。チームの仲間と話し合いながら、どのように町を作っていくか考える。

5 キャリア・未来デザイン教育の視点から

	「キャリア・未来デザイン教育」の視点	予想される子どもの姿
①	人間関係・社会形成能力(協力・協働) ※他者の個性を理解する力、他者に働きかける力、コミュニケーションスキル、チームワーク、リーダーシップ等	・町のすてきなところを見つけて、伝えている。 ・友達が見つけた町のよいところを聞いている。 ・自分が作りたい町について意見を交換している。
②	自己理解・自己管理能力(主体性・思考力) ※自己の役割の理解、前向きに考える力、自己の動機付け、忍耐力、ストレスマネジメント、主体的行動等	・町のお気に入りの場所、もの、人などを考えている。 ・気になることを質問したり、調べたりしている。 ・町について考え、まとめている。
③	課題対応能力(課題発見・分析・解決) ※情報の理解・選択・処理など、本質の理解、原因の追究、課題発見、計画立案、実行力、評価、改善等	・今後も続いてほしい町のよいところを考えている。 ・質問したり調べたりして、分かったことをまとめている。
④	キャリアプランニング能力(主体性・役割理解・社会貢献) ※学ぶこと・働くことの意義や役割の理解、多様性への理解、将来設計、選択、行動と改善等	・友達と役割分担をして、町を作っている。 ・どうやったら、自分たちの作りたい町が作れるかを考えている。

6 「せたがや探究的な学び」の4つのプロセス

世田谷区では、幼児・児童・生徒の実態に即した「せたがや探究的な学び」を通じた指導改善に取り組んでいる。世田谷区の児童・生徒の実態は、学力は定着しているが、学んだことが社会で役に立つという実感や、将来の夢や目標の実現への意欲、人の役に立つ人間になりたいといった意志に課題が見られる。学びの中で、自ら課題を発見し、その課題を解決するための「探究のプロセス」を繰り返し、発展させていくことを通して、将来、自己実現を図るために必要な資質・能力を習得できるような学びを推進していく必要がある。

	探究的な学び 4つのプロセス	予想される子どもの姿
1	課題を見出し、把握している	<ul style="list-style-type: none"> ・町探検を通して、町のよいところを見付けている。 ・あったらいいなと思う場所、もの、人を考えている。
2	課題解決の方法を考えている	<ul style="list-style-type: none"> ・何を使って町を作るのか、考えている。 ・必要に応じてインタビューしたり、調べたりしている。
3	協働して学んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・友達とすてきなところやあったらいいなと思うことについて、話し合っている。 ・同じ目的に向かって作りたい町を作っている。
4	学びを振り返り、次につなげている	<ul style="list-style-type: none"> ・町探検を通してもっと知りたいことを考えている。 ・自分たちの町の様子を知り、作りたい町を考えている。 ・友達や自分が作った町を見て、次に作りたいものを考えている。

7 単元について(単元計画・評価の観点) ※後述

8 本時の展開 ※別紙本時案参照